

TAKE
FREE

家族をつなぐ

「小さな図書館」のある暮らし

「小さな図書館」は、おうちのまんなか底抜けに明るく、仲のよい松田家には「小さな図書館」がある。階段を上ってすぐの場所に構えられた壁一面の本棚には、家じゅうの家族みんなの本や漫画があつまっていて、親子で共有されている。ソファやテレビまで設置されたこの場所には、大人も子どもも心がはずむ特別感があり、家族はもちろん友人たちにも人気の居場所になっているのだとか。



レイアウトの工夫も、おもしろい。子どもたちの手の届きやすい下段には、絵本や図鑑。中段には、みんなのお気に入りの漫画。上段には、夫婦の小説といったように

分けられており、家族の成長や変化にあわせて常に入れ替えを行っているという。



気づけばいつも、お気に入りの本を片手にソファに並んで過ごしているという三兄妹。そして、子どもたちが寝静まったあとは、夫婦の静かな読書時間にも。家族みんなが本好きの松田家にとって、この場所はおうちの“まんなか”なのだ。

絵本で育む、親子の関わり

親子の関わり合いとして、毎晩の読み聞かせを日課にする奥様。本棚には有名な作品から珍しい一冊まで、沢山の絵本が並んでいる。なかでも特にお気に入りは



1.小屋裏空間まで活かし、天井までめいっぱいの本棚を造った。2.階段の正面にあることで、一階から目が届き、声もかけやすいのだとか。3.それぞれのお気に入りの一冊。漫画・絵本・図鑑と、兄妹でも好みが分かれているのがおもしろい。

本の手触りを、大切にしたい

「本棚は、いくらあってもいい」そう話すご主人が大切にしたいのは、本の手触り。電子書籍が便利なのは理解できるけれど、やっぱり本を手に取ることが好きなのだとか。そんな思いから、新居をかまえるときは、大きな本棚をつくりたいと決めていた。本棚ができたおかげで、眠っていた本も日の目をあび、収納場所を気にせず本を購入できるようになったため、新しい本も沢山増えた。

最近では、自分たちが好きだった本を、長男が少しづつ読み始めたことも感慨深く、家族で本を共有するたのしみは、子どもの成長と共に年々ひろがっているという。本が身近にあり、家族で本を共有するたのしみ。「小さな図書館」のある暮らし、が、家族のつながりをより確かなものにしてくれていた。



松田様邸 | 家族構成:5人 / 施工年:2022年9月
構造:木造二階建て / 延床面積:32.03坪



テーマ

「暮らしに寄り添う本棚のある家」

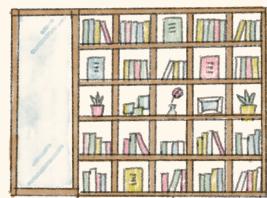
「壁一面の本棚がほしい」そんな本好きのご主人の念願かなって、すてきな造作本棚のあるお家を計画中の、安松さんご家族。構想から一年、ようやく間取り図が決まり、来年春の完成を心待ちにするご家族から、間取りやデザインのことだわりを聞かせていただきました。



Point 1

じぶんの理想の本棚がかたちに

「書斎など個室のなかでなく、いつも視界に入るような場所がいいけれど、主張しすぎずさりげない雰囲気で…」そんな、ぼんやりとした頭のなかの理想の本棚のイメージを設計ヒアリングで伝えたというご主人。設計プランナーの竹村が提案したのは、LDKとゆるやかに繋がりあう「暮らしに寄り添う本棚」だった。

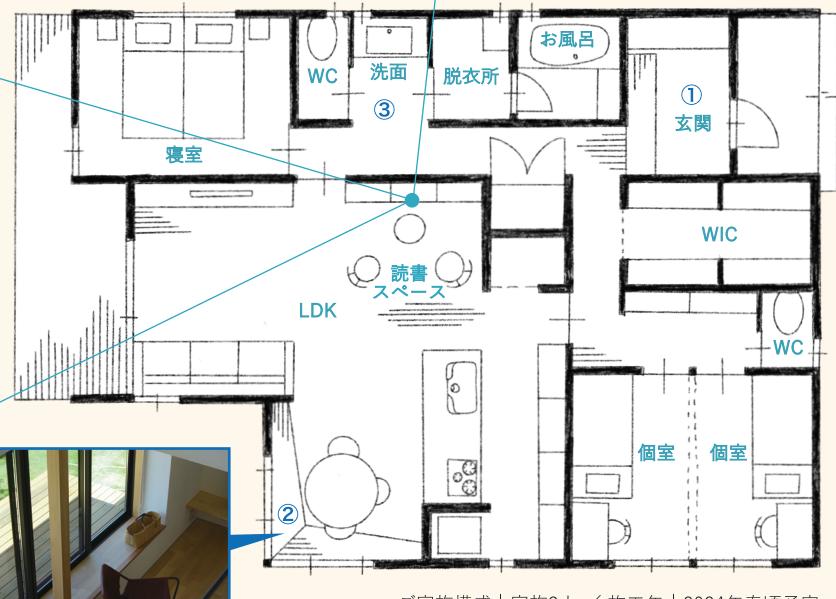


Point 2

シンプルで飽きのこないデザイン

本棚としてだけでなく、インテリアもたのしめるように、無印良品のスタッキングシェルフを参考に、シンプルな正方形のデザインを希望したのだとか。

取り図



「窓辺のベンチ」のイメージ写真です。

Q. 本棚をどこにつくる？

1



ダイニング

ダイニング脇のスペースは、子どもたちのリビング学習にも活用できるため、本棚の設置場所として人気がある。

2

置コーナー

二階リビングにある畳コーナーに設けられた本棚。外からの視線を気にすることなく読書時間をたのしむことができる。



3

寝室

寝る前の絵本の読み聞かせや、大人のひとり時間にも。寝室は、本棚設置におすすめの場所のひとつ。

Point 3

「家族みんなで、使いたい」

今はご主人の本がほとんどだそうですが、将来的には「家族みんなのさまざまな種類の本が並ぶといいな」と夢みている。家族が集まるリビング空間だからこそ、共有するたのしみが広がりそうだ。

ほかにも、こんなところにこだわりました！

①ひろびろとした土間玄関
家族が並んで靴をはける上がり框も、子育て中ならではのこだわり！

②景色をたのしめる窓辺のベンチ
「日当たりもいいのでグリーンを沢山並べたい」と、奥様。

③動線のいい、水廻り
一直線に並んだ水廻りは、家事の効率化に。

家づくりを

検討中のかたへのアドバイス

まずは、見学会へ
いってみて



家づくりを考えはじめて土地探しをしていた1年ほど前の間にたくさん完成見学会に参加したという安松さんご夫婦。平屋に決めたきっかけも、見学会だった。見学を重ねることで自分たちの好みを知り、それを営業担当や設計士とも共有できたことで、いざ計画に入ったときにとてもスムーズにすんだ実感があったという。

暮らしを変えてくれる「本」とであおう！

高松市上林町展示場
BATON HOUSE



日々の生活のなかで“何か”に悩んだとき、一冊の本のおかげで、ぱっと視界がひらけたような感覚になることがある。本にはその著者の人生が詰まっていて、ひとりではどうしようもないと思っていたところに、新しい風をふかしてくれるのだ。ネット検索が当たり前になった時代だからこそ「なにか新しい趣味をみつけたいな」「料理のレパートリーを増やしたいな」「子育てって難しい…」そんなささいな思いに寄り添う一冊と出会ってほしい。そんな思いからこの度高松市上林町展示場BATON HOUSEへ、本屋ルヌガンガさんに「暮らし」に紐づく100冊の本を選書していただいた。台所には、料理の本。リビングには、インテリアの本など、空間に合わせたディスプレイも必見。展示場を訪れた際はぜひ「本」とのでのいを楽しんで。

高松市上林町展示場 BATON HOUSE

時間:10:00~17:00 / 会場:香川県高松市上林町511-2付近
予約方法:087-813-7627(高松オフィス 担当:岡村)まで。要予約。

@baton_design_works_takamatsu

〒760-0050 香川県高松市亀井町11-13
営業時間:10:00~19:00 / 定休日:火曜日

@lunuganga_books

本屋 ルヌガンガ

QRコード

Next Issue

9月29日 発行

vol.4

田舎で暮らす

\ COCAGEに続く2号店が本社2階にOPEN /

CAFE FLAG

@bistrocafe_flag



吾川郡いの町にあるカフェ・ドッグラン

COCAGE Villa FUKUYA

@cocagevillafukuya



[発行元]

フクヤ建設株式会社

〒781-0015
高知市薬剤西町3-35-29

📞 088-845-4618

✉ fukuya@fukuya-h.co.jp

@fukuya.kochi

FUKUYA
in KOCHI

03

2023.8

TAKE
FREE

あなたの暮らしに、新しい風

Fun

FUKUYA LIFESTYLE MAGAZINE



vol. 3

本のある暮らし

家族に合った、理想の本棚づくりのヒント。